

# 損保ジャパン・グリーン・オープン(ぶなの森)

## 1. 定性評価・コメント

**Aa**

### 総合評価

「運用方針」は具体的かつ明確です。  
 「運用プロセス」は判断材料・基準の一部に不明確な点がありますが、組織的な意思決定プロセスが採られていることから運用の継続性は相応に確保されています。  
 「運用体制」は運用責任者の経験、担当ファンドへの専念度合い、運用メンバーの安定性・バックアップ体制等を含めて問題はありますが、リサーチ体制は規模の面でやや見劣りします。2023年6月運用責任者が交代しました。新責任者は豊富な運用経験を有しています。加えて、従来よりチームメンバーであり当ファンドのプロセスを熟知していることから、運用に支障はありません。  
 「組織・管理体制」は運用と管理が明確に分離され、牽制機能が十分に働く体制となっています。「ディスクロージャー」は評価できる内容となっています。「企業基盤」に関して、当社は強固な経営基盤を有し、財務・業務基盤も十分です。

### 運用方針

★★★★

わが国の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、環境問題への取組み状況に優れた企業のなかで、相対的割安度が高い銘柄に投資することにより、東証株価指数(TOPIX、配当なし)を中長期的に上回る投資成果を目指すファンドです。超過収益の源泉は銘柄選択に求めます。ベンチマークに対する目標超過収益率は設けられていませんが、許容アクティブリスクの上限は年率10.0%以下を想定しています。

### 運用プロセス

★★★

運用プロセスは、まず、環境評価により当ファンド独自のユニバースを作成、次に当社独自開発モデルの分析結果などをベースに、運用チームメンバーにより銘柄選択が行われます。なお、環境評価は、当社と同じNKSJグループのSOMPOリスクマネジメント(以下、マネジメント社)が担当します。

#### (1) 環境評価

マネジメント社では、国内上場企業の環境への取組みが進んでいると判断される企業に対し環境アンケートを実施します。このアンケート回答や、環境関連ディスクロージャーならびに個別企業ヒアリング結果をもとにして、評価対象企業についてA~Dの4段階のレーティングを付与します。

#### (2) 銘柄選択

運用チームは、まず、マネジメント社による環境スクリーニングを経たDランク以外の銘柄群の中から、信用リスクや流動性基準に満たない銘柄を除外し、当ファンドの投資候補銘柄群「ぶなの森ユニバース」を作成します。  
 次に、運用チームメンバーのアナリスト兼ファンドマネジャー(以下、アナリスト)は、各企業の競争力から推定される一定期間持続可能な収益力水準を予測し、当社独自モデルに入力します。このモデルは、企業収益が4つの成長段階を辿ると仮定、将来の理論配当を割り引くことにより投資価値(適正株価)を求め、市場価格との差に応じて割安度を判定するものです。アナリストは、モデルにより算出された割安度ランキングをもとに、調査対象銘柄を1(最割安)~5(最割高)までの5グループに分類し、「ぶなの森ユニバース」に含まれている割安度が高い銘柄を中心に、組入れウェイトを付けて銘柄推奨を行います。  
 最終的なポートフォリオ組入れ銘柄は、国内株式投資戦略会議により選定されます。その際、モデルによる定量分析と運用チームによる定性分析の結果を組み合わせた総合的な判断により、きめ細かいリスク調整を併せて行います。

運用プロセスは運用方針と整合性があります。また、判断材料・基準は相応に明確であり組織的な意思決定を行っていることから運用の継続性も十分に確保されています。

### 運用体制

★★★

当ファンドはチーム運用体制が敷かれているため、メンバー全員を評価対象とします。  
 運用チームメンバーは、おおむね国内株式の豊富な運用経験を有しています。担当ファンド数は多めですが、同一プロセスの運用が中心であることから、当ファンドの運用に支障をきたす状況にはありません。  
 運用責任者交代時等の引き継ぎ想定者は予め定められていないものの、チームメンバーの多くは豊富な運用経験を有していること、チーム運用体制のもと情報共有化が図られていることからバックアップ体制に問題ははありません。ただし、リサーチ体制は規模の面でやや見劣りします。  
 2023年6月運用責任者が交代しました。新責任者は豊富な運用経験を有しています。加えて、従来よりチームメンバーであり当ファンドのプロセスを熟知していることから、運用に支障はありません。

### 組織・管理体制(ガバナンス)

★★★★

コンプライアンスは所管部署で日々チェックされます。結果は所定の会議に毎月報告され、違反事項は同会議で審議されます。リスク管理項目は所管部署で日々モニターされます。規制に抵触した場合は運用部門に是正要請が行われ、結果は所定の会議に毎月報告されます。パフォーマンスは所管部署が月次で評価し、結果を毎月所定の会議に報告の上、運用部門にフィードバックします。改善を要する場合には、同会議から改善要請が行われます。  
 所管部署はいずれも明確で、管理項目、チェック・報告頻度も十分です。売買執行部門と運用部門は分離され、それらを管理する部門も両部門から独立しています。他の独立部門による監査も行われており、牽制機能が働いています。

### ディスクロージャー

★★★★

目論見書には、ベンチマークや投資対象、投資比率の他、ベンチマークを上回ることを目標とする旨の運用方針が明記されています。加えて、運用プロセス、運用リスクに関する具体的かつわかりやすい説明もあり、充実した内容と言えます。  
 運用報告書には、当ファンドおよびベンチマークの収益率、具体的な投資行動とそれが超過収益へ与えた影響について説明があり、充実した内容です。月報には、当ファンドとベンチマークの収益率比較、ポートフォリオの概要や投資行動が記載されており、十分な内容と言えます。

### 企業基盤

★★★★

当社はSOMPOホールディングスの100%子会社として強固な経営基盤を有しています。また、十分な財務基盤、業務基盤のもとに規律のある経営が行われています。

### 運用実績

★

直近5年間(2019年4月~2024年3月)の累積超過収益率は-8.55%(年率-1.71%)と、運用実績はベンチマークを下回っており、同期間のインフォメーションレシオは-0.34となっています。  
 また、直近1年間(2023年4月~2024年3月)の累積超過収益率も-4.71%とベンチマークを下回っており、同期間のインフォメーションレシオは-1.18となっています。東京エレクトロンや三菱商事の非保有、ニデック等の銘柄選択がマイナスに影響しました。

(注1)運用実績の分析は運用管理費用控除後ベースで実施しています。  
 (注2)弊社では当ファンドの運用実績を評価する際、東証株価指数(TOPIX、配当込み)を使用しています。

## 2. ファンド概要・運用実績等

### ファンドの概要

運用	SOMPOアセットマネジメント		
投資助言/一任	—		
MAB分類	国内株式(アクティブ)		
設定日	1999年9月30日	純資産額	442億円
基準価額	20,181円	運用管理費用(注)	1.6500%
分配金	直近1年:300円	設定来累計	4,400円

(注)運用管理費用は、年率、税込み(10%)表示です。

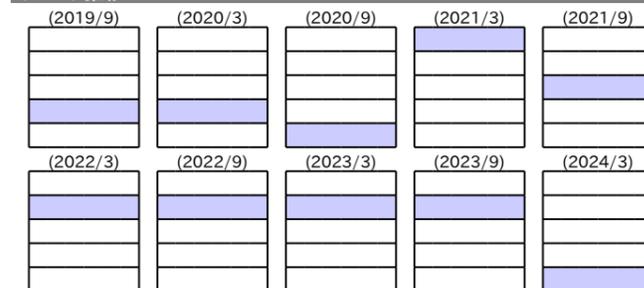
### 月次/累積超過収益率の推移



### ファンドの収益率

	当ファンド (%)	分類平均 (%)	ランキング		ベンチマーク (%)
			当ファンド	分類内ファンド数	
3か月	14.41	16.46	356	563	18.14
6か月	12.55	18.54	483	558	20.55
1年	35.10	35.99	300	543	41.34
3年	53.45	43.33	153	515	52.53
5年	79.15	90.91	306	490	96.19

### トレンド推移



同分類に属するファンドの6か月間の収益率を比較、上位から20%ずつ5段階にランキングし、その6か月ごとの推移を示したものです。

### 上位組入れ業種

業種名	組入れ比率	ベンチマークとの差
1 電気機器	11.62	-5.77
2 輸送用機器	10.94	1.44
3 銀行業	10.57	3.17
4 化学	7.51	1.79
5 情報・通信業	7.20	-0.05
6 陸運業	5.50	3.01
7 機械	5.48	-0.13
8 建設業	5.29	3.20
9 不動産業	4.51	2.37
10 食料品	4.13	1.05

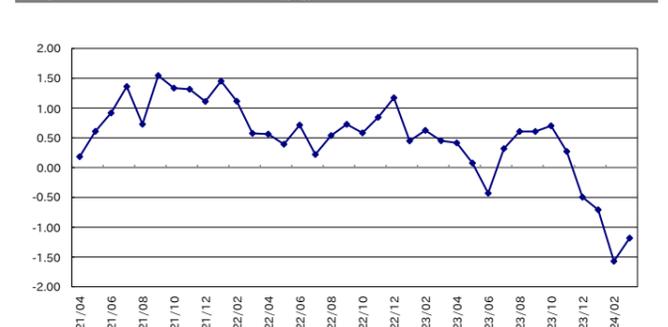
\*組入れ比率は運用資産残高に対する比率です。

### 基準価額・純資産額推移

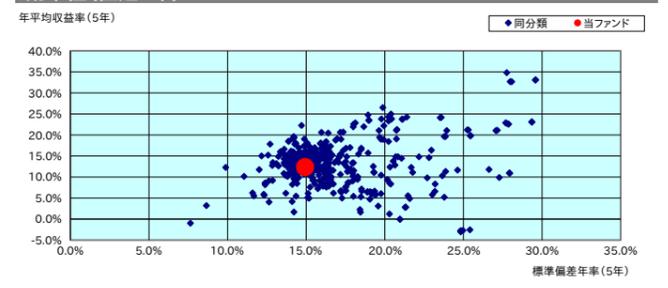


\*基準価額は左目盛り、純資産額は右目盛り。  
 \*基準価額およびベンチマークはファンド設定期間が5年未満のものは設定日月末時、5年超のものは基準日より5年前の時点をもとにした指数値にて表記しています。

### 1年インフォメーションレシオの推移



### 効率性(直近5年)



収益率のぶれ(標準偏差)をできるだけ少なくして高い収益率をあげたファンドが、運用効率性の高いファンドとされています。

### 上位組入れ銘柄

銘柄名	業種	組入れ比率	ベンチマークとの差
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.75	2.36
2 トヨタ自動車	輸送用機器	4.12	-1.20
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.68	2.08
4 日本電信電話	情報・通信業	3.02	1.65
5 三井不動産	不動産業	2.11	1.54
6 第一生命ホールディングス	保険業	2.08	1.60
7 めぶきフィナンシャルグループ	銀行業	1.95	1.89
8 村田製作所	電気機器	1.94	1.28
9 武田薬品工業	医薬品	1.91	0.96
10 パナソニックホールディングス	電気機器	1.82	1.38

\*組入れ比率は対純資産総額比です(ファミリーファンド方式の場合は対マザーファンド純資産総額比)。

●本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・プレイング株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。  
 ●本レポートは、投資信託委託業者等から入手した情報およびMABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の真実性・正確性をMABIにて調査・確認したのではなく保証するものではありません。  
 ●MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。  
 ●本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の業績を示すものであり、将来の運用成果を保障するものではありません。  
 ●本レポートは、情報提供を目的としたものであり、本投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。  
 ●投資信託はリスクを含む商品であり、したがって元本保証はありません。

●本レポートは、コンサルティングサービス契約に基づきMABが報酬を得て作成し、使用許諾を与えたものです。  
 ●本レポート中の運用実績の分析は、原則として運用管理費用控除後、配当込みベースで実施していることや、ベンチマーク算出方法(配当・為替)の違い等から、投資信託委託業者等の分析とは異なることがあります。  
 ●(累積)超過収益率のデータはMAB独自の計算によるものであり、ファンドとベンチマーク収益率の差とは一致しないことがあります。  
 ●2. ファンド概要・運用実績等の数値は、基準日当日のデータを使用して算出するほか、基準日前日のデータを使用する場合もあります。  
 ●東証株価指数(TOPIX、配当込み)の指数値及び東証株価指数(TOPIX、配当込み)による標準偏差は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。